

◆ おにぎりアクションとは

「おにぎりアクション」は、10月16日の世界食料デーに合わせて開催されるキャンペーンです。「日本の食で世界を変える」をコンセプトに、日本の代表的な食べ物「おにぎり」を通じて、アフリカおよびアジアの子どもたちに温かな給食を届けています。



※おにぎりアクションに投稿された写真です

参加方法は簡単で、おにぎりにまつわる写真の特設サイトに投稿するか、ハッシュタグ「#OnigiriAction」を付けてInstagram・X・FacebookなどのSNSに投稿するだけ。1投稿につき、5食分の給食が届けられます。

おにぎりアクションを運営するTABLE FOR TWO(TFT)で活動されている山本さんに、おにぎりアクションをはじめとする取組についてお話を伺いました。

◆ TABLE FOR TWO とおにぎりアクションの概要

Q:TABLE FOR TWO(以下、TFT)の活動と、おにぎりアクションの始まりについて教えてください。

A: TFT は 2007 年に NPO 法人として活動を開始しました。先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが食事を分かち合うというコンセプトのもと、世界的な“食の不均衡”の解消を目指しています。TFT プログラムでは、1 食につき 20 円を寄付する仕組みで、現在約 700 の企業がパートナーとして参加しています。

おにぎりアクションは 2015 年、国連が定めた世界食料デーに合わせてスタートしました。TFT の理念に共感しても、参加の場がない方がいたため、「誰でも手軽に SNS を通じて参加できる仕組みを」と考え、1 枚の写真投稿で 5 食分の給食が届く仕組みを導入しました。

Q:これまでにどれくらいの写真が投稿され、何食分の給食が届けられたのでしょうか？

A: 今年で 11 回目の開催となりますが、昨年までの 10 年間で累計 214 万枚の写真が投稿され、1160 万食の給食を届けることができました。年々協賛企業も増え、投稿件数も初年度の約 5000 枚から 30 万枚近くまで増えました。

Q:給食が現地の子どもたちに届くまでの仕組みは？

A: 信頼できる現地パートナーが、貧困地域への給食提供をサポートしています。パートナーはその地域コミュニティに根差しているので、実務を担ってもらい、給食提供の様子をレポートで報告してもらっています。私たち事務局も年に 1 回程度、現地視察を行っています。

Q: 山本さんが実際に現地を訪れた際の印象は？

A: 2023年にルワンダの支援先を訪れました。子どもたちは貧しいながらもとても元気で、訪れたのはバンダ村という電気も通わない山奥の村でした。肉や魚はなかなか手に入らない地域でしたが、村でよく採れ、タンパク質が豊富な豆を毎日給食に使用していました。現地の様子を日本の支援者に誠実に伝えることが、私たちの使命だと改めて感じました。



Q: 海外で提供される給食メニューには特徴がありますか？

A: 給食は現地で採れる食材を使い、現地のパートナーや保護者が調理しています。日本から食材を持ち込むのではなく、地域資源を活用することで、地域経済の活性化や雇用創出にもつながっています。



写真提供: TABLE FOR TWO

◆ 日本国内への支援の広がり

Q: 今年から日本の子どもたちにも食支援を始められた背景は？

A: TFT 設立当初は、先進国と途上国の経済格差による“食の不均衡”が主な課題でした。しかし、20 年近く経過し、先進国でも栄養課題が顕在化しています。SNS を通じて支援の要望もあり、日本国内でも支援を始めました。

日本の貧困は、地域全体ではなく家庭単位で起こることが多く、地域から孤立する傾向があります。そこで「おにぎりアクション FOR JAPAN」として、従来のおにぎりアクションとは期間を分け、5 万枚を達成すると支援を行う企画に初挑戦することにしました。一般社団法人明日へのチカラと協力し、賛同する地域の飲食店で使える無料チケットを配布することで、見守りが必要な子どもが食を通じて地域とつながるきっかけになればと考えています。

◆ おにぎりがキャンペーンのシンボルである理由

Q: キャンペーンのシンボルに「おにぎり」を選ばれた理由は？

A: おにぎりは日本のソウルフードであり、手軽に作れるうえ、誰かのために作ることも多く、温かな思い出に結びついている食べ物です。形や味に個性が出せるため、SNS との相性も良く、思い思いのおにぎりを表現できる点が魅力です。

◆ 山本さんの TFT 入職の背景としたい

Q: TFT に入職された背景と現在の思いを教えてください。

A: コロナ禍をきっかけに、自分の行動が社会に影響を与えていることに気づきました。「飢餓・国際協力」は大切だと理解していても、どこか縁遠いものと感じていましたが、海外でのワーキングホリデー中に経験したコロナ禍がその認識を変えるきっかけになりました。今は、未来の子どもたちのために温かな気持ちで働けることに感謝しています。

Q: おにぎりや給食にまつわる思い出があれば教えてください。

A: 遠足のとき、母が作ってくれたおにぎりの思い出が強く残っています。三角形はアルミホイルに包まれ、俵型は弁当箱に詰められていました。おにぎりに紐づいたシーンや一緒に食べた人の記憶もよみがえります。



※おにぎりアクションに投稿された写真です

◆取材を終えて

おにぎりに込められた“誰かを思う気持ち”
が SNS の投稿をとおして、世界中の子ども
たちに温かな給食を届ける取組につながっ
ている「おにぎりアクション」のお取組に、心
がじんわりと温まりました。山本さん、貴重
なお話をありがとうございました。



※おにぎりアクションに投稿された写真です